



センセイ 悲しいお知らせです

院長 青木 信彦



先月(6月)のNHK「明日も晴れ 人生レシピ」ではへとれへむで坂本さんのハープ演奏が紹介されました。多くの方にみてもらい感謝です。患者さんの呼吸に合わせてハープを奏でるという坂本さんの説明に"なるほど"

と感動しました。写った病院はとてもきれいで、一瞬、どこの病院なのかしらと戸惑ってしまいました。NHKの映像技術なのですね。

じつは放映の数日前のことでした。なにやら看護部長が やってきて、「センセイ 悲しいお知らせです」と言うので す。だれか職員の家族に不幸があったのかしらとか思ったと ころ、看護部長はあわれみを隠すかの如く、顔を斜め横に 向けながら、「センセイはテレビに出ないことになりました」 と言うのです。取材では院長インタビューもあったのですが、 急遽カットされたとのことです。

一瞬、「残念」と感じながらも、大きな開放感もありました。~そうだ、これで十字架を背負うことなく、坂本さんのハープ演奏は**べとれへむ**~と胸を張って宣伝できるとあらためて気合いが入ったのです。もちまえの前向き思考です。

この放送の機会に**べとれへ**むの名前をもっと幅広く知ってもらいたいと、みんなで考えました。その一つがネームプレートの近代化です。

自分のネームプレートの顔写真に納得している人は多くは ないようです。~本当は違う、もっと実力があるはずだ~、 とか。

新しいネームプレートはロゴ べとれへむ に職種と名前だけで、顔写真がなくなりました。

(よく考えてみますと、もともと顔写真はなくてもいいものなのですね)

その結果に職員の反応はさまざまです。顔写真に自信のある人は"なんでないの"と残念がり、一方では毎日の仕事を始めるにあたって「あのネームプレートの"顔写真が重荷"になっていた」と喜ぶ意見も少なくなかったようです、~天井がとれた、開放感だ~とか言っています。

ところで、あなたはどちら派ですか。

*外来の待合では、坂本さんの演奏番組の録画を毎日見る ことができます。見る度に新たな感動がおこります。ぜひと も繰り返しご覧ください。



ハープと坂本さん&あおき



あたらしいネームプレート 職種と名前だけ 顔写真がなくなりました(≌)



(特別企画) 『あしたも晴れ!人生レシピ』放送記念

パストラルハープ ボランティア **坂本千歳**さん からのメッセージ



今年の始め、ハープの恩師であるキャロル・ サックさんをとおしてNHKからの番組出演の打 診がきたとき、「無理です」と、すぐにお返事を しました。その理由としては、①修行中の身だか ら、②メディアに出ることへの抵抗感、③病院で の取材は無理だろうというのが、主な理由でし た。それでも、何とか考えて欲しいと頼まれ、お 断りする決定的な理由が欲しくて、看護部長さん に相談に行きました。私としては、「患者様の撮 影は無理よ」と言って欲しかったのです。しか し、期待に反して、窪田部長は、「その取材、ぜ ひ受けて欲しい!」とおっしゃり、すぐに青木院 長、菊池事務部長に相談なさったところ、お二 人とも大賛成だというのです。病院側が協力を 惜しまないと言ってくださったことに驚くと同時 に、もしかしたらこれは、6年もの間、パストラ ルハープのボランティアを受け入れてくださった ベトレヘムの園病院に対し、わずかでも恩返し ができるチャンスを天が与えてくださったのかも しれないと何故だか閃き、それならば!と取材を 引き受けました。

これまでもベトレヘムの園病院の"ノリの良

さ"のようなものは感じていま したが、このたび、改めてそれ を実感しました。取材前には、 看護部長手作りの撮影告知ポ スターが病院内に貼られ、撮 影当日、スタッフの皆さんの制 服の腕には、病院のロゴ入り ワッペンが貼られ、「べとれへ む」の文字がカメラに写り込む 工夫が随所になされていまし た。また、"自慢の美しい中庭 で、院長先生と坂本がさりげな く出会い、会話を交わす"シー ンは、何度も取り直しをして、 まるでドラマの撮影のような気 分を味わいました(すべてカッ トされてしまい残念!)。そして、 お顔を出しての撮影に応じてく

ださったお二人の患者様とご家族のご好意が信じられないぐらいにありがたく、また、そのために段取りをしてくださったスタッフのお手間を考えると、「こんなふうに協力していただけるなんて、これは一体全体、どういうことなのだ???」と、半ば夢の中のようなフワフワ&ボ〜ッとした時間を過ごしているうちに撮影が終わりました。

無事にテレビの放映も終わり、いつも通りの静かなボランティアの時間が戻ってきてホッとしていますが、それにしても、今回の事を通して、なおいっそう私はベトレヘムの園病院が好きになりました。ここには、こんなにステキでおもしろいスタッフの方たちがいて、あたたかく頼もしく患者様とご家族を支えておられること、またフロジャク神父様や修道会の皆様の祈りが積み重ねられ、この場所を特別なものにしているということを、多くの方たちに知っていただきたいと思います。これまでもきっと地域の中で特別な場所(秘密の花園的な)だったのでしょうし、これからも地域に開かれた美しい園でありますように(何か協力できることがあったら教えてください)。

心からの感謝と共に!

永年勤続 表彰式 喜びの声 《田中 修(1階病棟 介護福祉士) 20年表彰》

20年、文字で書くとたったの 三文字ですが、実際にはかなり の日数であり(計算すると7300 日です。) それだけの時間があっ たのでその間様々な事が起こっ たのですが、特に怪我もなく無

事に勤め上げてきました。

これは自分が患者様の為に日々の業務を努力してきましたが、その努力は支えてきてくれた病棟の同僚たちや家族の力があったからであり、今後は感謝の思いを胸に頑張って行きたいと思います。

《青木信彦(院長) 10年表彰》

波風なく10年間も勤務できた事に感謝です。

自宅から職場までの小一時間は、社会と接触していることを実感します。

人間ウオッチングですね。あらためて、健康で仕事の出来ることに感謝です。

《野田 由貴(医療連携課リーダー) 10年表彰》

振り返ればコロナの流行、個人的には出産後に仕事

復帰させていただくなど、たくさんの方々に助けられてきました。ありがとうございます。次は勤続20年を目指し、少しでも恩返しできるよう頑張りたいです。

《山中 美幸(リハビリテーション科リーダー) 10年表彰》

19年前に非常勤で入職し、病院勤務は未経験の私を温かく迎えてくれました。環境も少しずつ変化して行き、戸惑う事もありましたが、共に働く沢山の皆さんに助けられ支えてもらい、ここまで来られました。これからも感謝の気持ちを忘れずに働きたいと思います。

《上野 明日香(1階病棟 看護師) 10年表彰》

勤続10年ということで、いろんな事がありましたが、 皆様の支えがあったからこそ10年を迎えられました。 患者様と関われる時間をもてることが幸せです。

これからも自分に できることをひと つずつ頑張ってい きたいと思います。 ありがとうござ いました。



6月の公開健康講座「認知症 親が心配、自分も心配」開催報告

無料健康公開講座シリーズ・認知症第3弾「認知症・・親が心配、自分も心配」が6月6日、当院会議室にて開催されました。講師の岡田医師から〈★認知症では、この世界がどのように見えているか★親の介護のコツが分かる★自分の認知症早期発見に役立つ〉という3つの柱に沿った講義がありました。21名という沢山の参加があ

り、皆さんの認知症への興味の程が感じられました。初期症状から認知症予防へという内容では、早期発見で使用できる新薬のことや、認知症の約40%は生活習慣の改善で予防できる!などのお話が印象的でした。参加された皆さんからの質疑もたくさん寄せられ、活発な会となりました。

9月5日には、栄養科と薬剤科による講座も企画しています。ぜひ奮ってご参加ください。

お知らせ

ギャラリーマルゴー は来春に延期と なりました

ランチ付き 無料健康公開講座 ビタミンD&ビタミンK 『丈夫な骨を作りましょう!!』

9月5日11時~2F会議室 講師:管理栄養士・薬剤師

定員 15名 完全予約制 7月16日(火) 予約受付開始

お電話にてご予約ください





市川 雅子(皮膚科医師)

皮膚と寄生虫

最近、とても興味深い本を読みました。「死の 貝」(新潮文庫)という、日本住血吸虫による病気

について書かれたものです。日本のある地域の農民やその子供、そして牛や猫などにみられるおなかが大きくふくれる(大きくふくれてきたらまもなく死ぬ)風土病として存在していた奇妙な病気について、江戸時代末期から明治・大正・昭和にかけて、その解明と撲滅にかかわった多くの医師や研究者らの活躍を描いています。当初は一部の熱心な医師にしか興味を持たれなかった病気でしたが、戦争をきっかけにして、その解明に県や国が乗り出すことになります。その地域の多くの男子が成長不良のため兵役につけなかったのです。そして、この病気の原因の究明に皮膚科医も関与していました。流行地の水田の水につかる農民や子供たちのすねなどに赤い点々とした発疹がでることが知られていて、その皮膚科医自ら、発疹が出る水田に足をつけ、どうなるか実験したのです。同じ頃に牛を使った

実験も行われ、その結果、その発疹が日本住血吸虫の経皮感染によっておこることがわかりました。本の題になっている貝とは、その寄生虫の中間宿主であるミヤイリガイのことで、この貝がいなければ人や動物への経皮感染が起こりません。このミヤイリガイという小さな巻貝も、病気の解明の途中で発見された新種の貝でした。また、日本での研究が進み、この病気が日本だけでなく、中国やフィリピンでも発見されました。ただ、なぜ、一部の地域でしかみられないのか、ということは、いまだ完全に解明できていないようです。

さて、皮膚病を起こす寄生虫はたくさんあります。疥癬やシラミは有名ですが、クリーピング病(皮膚幼虫移行症)という病気があります。主に体に蛇行した赤い少し盛り上がったような線状の発疹が出てきます。そしてそれは時間とともに動きます。実際に見ると、とても奇妙で忘れられない発疹です。この原因はヒトを最終宿主としない寄生虫の幼虫です。淡水魚やヘビなど(時にホタルイカも)を生食あるいはそれに近い状態で食することで感染し、ヒトの体内では成虫になることができないため、幼虫のまま、皮膚の中を移動するようになります。その際、肺や腸などにも移動して咳や腹痛などが起こることもあります。治療は駆虫薬の内服ですが、皮膚だけなら外科的切除を行います。淡水魚やホタルイカなどを食べる時は、しっかり熱を通して食べるようにしましょう。

令和5年度決算報告

事業収支計算書(単位:千円)

子术认之们并自《中位:1137					
	収益の部		費用の部		
	医療事業収益	938,812	人件費	685,563	
	区原争未収皿	930,012	事業費・事務費ほか	188,373	
	経常経費寄付金収益	14,435	減価償却費	47,526	
	サービス活動外収益	13,907	サービス活動外費用	13,467	
	特別収益	158	特別損失	28,655	
	〈収益合計〉	967,312	〈費用合計〉	963,584	
			〈当期損益〉	3,728	

資金収支計算書(単位:千円)

収益の部		費用の部	
医療事業収入	938,812	人件費支出	674,148
その他収入	28,342	事業費・ 事業費支出ほか	201,428
施設整備等収入	335	施設整備等支出	72,218
その他の活動収入	10,661	その他の活動支出	48,880
〈収入合計〉	978,150	〈支出合計〉	996,674
		〈当期収支差額〉	-18,524

【コメント】

- ①医療事業収益は年間を通じて安定的に推移。ご寄付にも支えられた1年でした。
- ②事業費は食材、光熱費をはじめ物価高騰の影響を大きく受けました。構成比の大きい人件費は人員の出入りも少なく安定していました。
- ③事業収支は3年ぶりに黒字に回復。資金収支は高額の施設整備が続き、黒字化には至らずも改善に向かいつつあることが確認できました。



編集後記

寄席に行かれたことはありますか?古典芸能なんて笑点くらいしか知らない私ですが、子どもが落語に興味を持ったことをきっかけに寄席に行ってみました。老舗の浅草演芸場では、落語はもちろん漫才やマジック、講談なども見ることが出来ました。中でも印象に残ったのは、ボンボンブラザーズという男性二人組のパフォーマンスでした!なんと御年80歳81歳のお二人!! 人生100年時代にふさわしいお元気な様子と、お客さんを巻き込んでの一体感で大盛り上がりでした。そうかと思えば、人間国宝の神田鯉師匠の講談も聞くことが出来ました。皆さん80代!現役バリバリでのご活躍でした。人生100年時代に、目標となる先輩方を目の当たりにして元気をもらいました。

夏休み、また寄席に行きたいね…と相談しています。暑い夏、涼しくてお腹から笑える寄席は私のおすすめスポットです。





(K • M)